

令和3年度 事業報告書
活動期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日

法人の名称 特定非営利活動法人 未来をつかむスタディーズ

1 事業の成果

(1) 特定非営利活動に係る事業

ア 学校における教育事業について

本年度も年間を通じての協働事業を核とした。

- ① 神奈川県立横浜清陵高等学校との提携事業である「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発・実践を核となる事業と位置づけて活動した。

3年目の協働であり、1年次からみてきた生徒は3年生となり、希望者6名による探究ゼミが発足した。毎週放課後に集まり、各自の関心事のうち、社会的に意義のあることをテーマとして探究を続けた。12月には発表の場を設け、社会人50人以上が集まるオンラインの場でプレゼンテーションを行い、生徒は応援コメントを多数頂いた。概ね学びの深さが好評を得たようであり、教育関係者をはじめ、参加頂いた社会人にとって刺激と参考になったようである。

ゼミ生6名中、2名は推薦等で進学が決まり、2名は探究したことをプレゼンしてAO入試に合格した。2名は一般受験であった。

2年生も280名全員が個人の関心事をテーマに探究をした。前年度の探究カリキュラムをベースとしつつ、より深く活発な探究活動を目指した。しかし、コロナ禍の影響も大きく、生徒が外に出ていく機会や、外部講師による講座もカットせざるを得ず、実社会への働きかけという点が思うようにできなかった。それでも、生徒は教室内、また、各々の行動範囲の中で動くことを意識しており、机上の探究にはならず、アンケート実施をはじめ、イベント実施、ものづくり、実験など、具体的な行動を伴う探究活動も多くみられた。

年度末の横浜市南区の「探究発表会」では、昨年に続き、協働してきた横浜清陵高校の生徒の発表が高い評価を得て、「総合的な探究の時間」研究開発指定校としての役割を一部果たすことができたと考えられる。

当団体としても、3年間、探究の先行事例を公立学校と共に創りあげ、それを他の学校に紹介していくことによって、地域や県、ひいては国全体の「総合的な探究の時間」の充実を図り、生徒一人一人の健全育成に寄与していくための土台を築くことができた。

- ② 新たに鎌倉市教育委員会から「鎌倉スクールコラボ」事業の委託を受け、鎌倉市立小坂小学校における「SDGsをテーマとした課題解決型学習」を、年間を通じて協働した。

児童はSDGsを4年生の時から学んできており、「プラスチック」「街づくり」「再エネ」「核兵器」「難民」「自然保護」「フードロス」「生物多様性」の8テーマを彼ら自身が設定した。その分野の実践者や研究者と共に学び合いながら、身近な課題に気づき、情報を整理分析して、自分事でアクションを起こすことをゴールとして学びを進めた。

全てのグループが、地域社会にアプローチして、情報を集め、街を観察し、デモ行進をするなど、積極的に社会に働きかけていた。また、自分達にできるものづくりや、提案書作成など、多くの児童が具体的な活動に辿り着いたことは大きな成果である。

特筆すべきは、「自分が動くことで社会は変わると思うか」という質問に対して、80%以上が「そう思う」と回答、また、「SDGsは遠い世界の課題ではなく、自分達の課題でもある」に対しては、90%以上が「そう思う」と回答している点である。このモニタリング結果から「実践的な学びをすること」そのために「具体的な対象を設定すること」がいかに重要かということ強く再認識した。

また、教員と共にカリキュラムや授業を創ることで、教員の経験値やスキルを向上させるという目的も、コメントやアンケート結果等から、果たせた部分も多くあると感じている。

- ③ 年間契約以外にも、例年どおり、高校や大学等で探究、国際理解、キャリア等の講座を実施した。下記表参照。
- ④ 世界子どもの日ユースフェスタに参加し、これまで伴走した学生 3 名が発表した。

イ 外国籍住民と共に活動する事業について

上述した鎌倉スクールラボでは、難民としてベトナムから来日した方の講話や、それをもとにしたワークショップを実施した。元々「難民」について学んでいた児童も、リアルにそれを体験した方が眼前にいること、その経験談は、相当心に響いたようである。その後、多文化共生の活動をされている方と、自分に何ができるかを考えており、外国籍住民の方への理解を深めた様子であった。

横浜市立南高校の異文化理解の講座では、ガーナルーツの日本人、中国ルーツの大学院生と共にパネルトークを実施した。異文化を経験し、多文化共生を考えてきた当事者の言葉は重く、生徒はこの学び合いから非常に多くのことを感じ取っている様子であった。

また、神奈川県立横浜清陵高等学校は在県外国人特別入学枠(在県枠)を持つ学校でもあり、フィリピン、中国、ベトナム、ネパール等の外国ルーツの生徒が各学年 10 名程度在籍している。彼らをエンパワーするための心構えや方法について、学校教員に情報提供することで、間接的に外国ルーツの生徒のケアを図った。

ウ 社会人等に対する社会教育事業について ※国際交流事業も含む

- ① コロナの状況下、JICA 青年海外協力隊から帰国した隊員や進路変更をする若者のセミナーに代表の河内が登壇し、自身の経験を踏まえて帰国後の進路選択のアドバイスを行った。教育や多文化共生分野への志願者も多く、参加者からの評判がよかったと報告を受けた。
- ② 横浜市の社会福祉協議会の職員研修を行った。2 回に亘り SDGs をテーマにして、SDGs を再確認、SDGs とケアプラザのビジョン・職務との結合を図った。2 回目はワークショップ形式で実施して、アンケート結果は「SDGs を身近に感じられた」という声を多く頂いた。
- ③ アメリカ大使館との新たな協働「コワーキングスペースを活用した交流促進」事業は 2 年目を迎えた。本事業は日本企業をはじめとする多様なセクターとアメリカ大使館職員との交流を促進し、ネットワークを創出し、互いの理解を育みながら協働関係を築くという趣旨で実施している。アメリカ独立記念日に合わせて 7 月初めにアメリカ week を開催されるなど、上記趣旨に沿った活動のサポートができた。

オ 市民活動団体等に対する支援事業について

NPO 法人 政策学校一新塾のコンサルテーション講座に助言者として登壇し、市民活動や社会起業、政策提言に関してコメントするなど、市民活動に貢献した。

2 事業内容(活動一覧)

(1) 特定非営利活動に係る事業

ア 学校における教育事業

イ 外国籍住民と共に活動する事業

- ① 神奈川県立横浜清陵高等学校「総合的な探究の時間」コンサルタント
*期間：令和 3 年 4 月 15 日～令和 4 年 3 月 31 日 木曜日 50 分×2 コマ
*対象者：2 学年 280 名、教員 15 名の学びのサポート ※下記表を参照
3 学年 6 名 下記個人テーマ探究の伴走、進学指導
 - ・泣くことの研究
 - ・廃棄ビニル傘アップサイクル
 - ・K-pop とダンスで異文化理解を深める
 - ・犬猫殺処分ゼロを目指す相談アプリ開発
 - ・アップサイクル化粧品の可能性
 - ・むくみをなくすための女子高生の 1 日

※横浜清陵高校 2 年生の実践

日程	時限	5 校時	6 校時
2021/4/15	5+6	オリエンテーション	オリエンテーション
2021/4/21	5+6	課題設定とは	課題設定とは
2021/5/6	5+6	自己探究①	自己探究①
2021/5/13	5+6	自己探究②	自己探究②
2021/5/20	5+6	課題設定	課題設定
2021/6/3	5+6	課題設定・面談	課題設定・面談
2021/6/10	5+6	課題見直し・面談	課題見直し・面談
2021/6/17	5+6	プレゼン準備	プレゼン準備
2021/6/24	5+6	課題設定プレゼン	課題設定プレゼン
2021/7/1	5+6	資料収集の方法	資料収集の方法
2021/7/15	5+6	資料収集計画→夏期休暇で実践	資料収集計画→夏期休暇で実践
2021/8/26	5+6	ナビゲーション	ナビゲーション
2021/9/2	5+6	探究活動・面談サポート	探究活動・面談サポート
2021/9/9	5+6	探究活動・面談サポート	探究活動・面談サポート
2021/9/16	5+6	探究活動・面談サポート	探究活動・面談サポート
2021/9/30	5+6	探究活動・面談サポート	探究活動・面談サポート
2021/10/7	5+6	プレゼン準備	プレゼン準備
2021/10/21	5+6	中間プレゼン	中間プレゼン
2021/10/28	5+6	ナビゲーション	ナビゲーション
2021/11/11	5+6	インタビューの方法とポイント 講師:元 NHK ディレクター 濱口氏	
2021/11/25	5+6	探究活動・面談サポート	探究活動・面談サポート
2021/12/2	5+6	ヒトとロボットで課題解決 講師:横浜国立大学准教授 島氏	
2021/12/9	5+6	発表のための動画づくり 講師:映画監督 山崎氏	
2021/12/16	5+6	ナビゲーション	探究活動・発表準備
2021/12/23	5+6	探究活動・発表準備	探究活動・発表準備
2022/1/13	5+6	探究活動・発表準備	探究活動・発表準備
2022/1/20	5+6	クラス発表	クラス発表
2022/1/27	5+6	リフレクション	リフレクション
2022/2/3	5+6	探究 DAY	探究 DAY

- ② 鎌倉スクールラボ「SDGsをテーマにした課題解決型学習コーディネート」
 ＊期間：令和3年6月18日～令和4年3月31日
 ＊対象者：鎌倉市立小坂小学校6年生113名、教員3名の学びのサポート
 【前半】

日程	内容
6/22(火)実施	<p>■オリエンテーション1：ワークショップ「SDGs&Me」 SDGsを世界規模の課題から見直し、自分の興味や得意なこと、将来の夢との繋がりを考える。自分と世の中のビジョン図の作成を通して、SDGsを自分事で考える。</p>
7/6(火)実施	<p>■オリエンテーション2：ワークショップ「やってみよう課題解決型学習」 課題とは何か、課題解決とは何か、グループワーク・対話形式でミニチュアサイズの課題解決型の学びを実践して、今後の学びに繋げる。</p>
10/12(火)実施	<p>■学び合い1：児童から出てきた8テーマの実践者・当事者・専門家と学び合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プラスチック：ワークショップ「プラスチックごみをどうする!？」 ＊上智大学学生団体Green Sophia 金城初穂氏、中村真凜氏、ほか、計7名 ○再生可能エネルギー：ワークショップ・講和「電気づくりと再生エネと国際協力」 ＊NPO法人Class for Everyone 代表理事 高濱宏至氏 ○生物多様性・温暖化：ワークショップ・講和「絶滅危惧種の動物達と温暖化」 ＊地球温暖化防止ネットJCCCA 動物飼育員 高橋文彦氏 ○核兵器：ロールプレイ・講和「あなたが国の代表だったら」※オンライン ＊長崎大学核兵器廃絶研究センター 准教授 中村桂子氏 ○難民：講和・ディスカッション「難民としてベトナムから日本へ」 ＊外国人相談窓口/入国管理局 相談員 トルオン・ティ・トゥイ・チャン氏 ○自然保護：講和「SDGsと文化遺産と鎌倉」※オンライン ＊大学 准教授 S氏 ○フードロス：ワークショップ・講和「もしあなたが店員だったら、客だったら」 ＊マザーズカフェ オーナー/鎌倉のごみ減量をすすめる会 代表 白田宗太郎氏 ＊鎌倉ゴミフェス532 平野理恵氏 ○まちづくり：まちのコイン「クルッポで何が出来る?」 ＊面白法人カヤック 高久敏宏氏

【後半】

日程	内容
12/16(水)実施	<p>■学び合い2：高校生の実践紹介とワークショップ「廃棄ビニル傘アップサイクル」 総合的な探究でアップサイクルを実践した高校生から、なぜ活動を開始したかを聞き、実際にアップサイクルの工程を体験する。対象はプラスチックチーム25名。</p>
1/18(火)実施	<p>■学び合い3：児童からの進捗報告と実践者・当事者・専門家による助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プラスチック ＊上智大学学生団体Green Sophia 金城初穂氏、中村真凜氏、リャン・リーウエン氏 ○再生可能エネルギー ＊鎌倉女子大学教育学部 学生 岩田美穂、加藤ひなた、ほか、計7名 ○生物多様性・温暖化 ＊E大学 准教授 S氏 ※オンライン ○核兵器 ＊鎌倉市原爆被害者の会 代表 網崎万喜男氏、中村郁子氏 ○難民 ＊神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ) 多文化共生課 柳下知慧氏 ○自然保護 ＊E大学 准教授 S氏 ※オンライン ○フードロス ＊マザーズカフェ オーナー/鎌倉のごみ減量をすすめる会 代表 白田宗太郎氏 ＊鎌倉ゴミフェス532 平野理恵氏 ○まちづくり ＊NPOらぶらんど 代表/看護師 中村淑代氏
3/1(火)実施	<p>■学びの発表会：小坂小学校「SDGs課題解決型の学び」発表会 @あーすぶらざ 子ども達が1年間の学びを振り返りながらまとめる、学びを外部に発信する、プレゼンテーションする、フィードバックを受ける、学びを継続発展させる機会とする。 ※全グループが発表する ※協力頂いた団体や人物を招待し、学びの成果に対するコメントを頂く</p>

③ 学校での探究、キャリア、国際理解の学び

日程	学校	人数	概要
4月9日	神奈川県立山北高校2年	197名	探究オリエンテーション
4月16日	神奈川県立山北高校1年	198名	探究オリエンテーション
10月27日	逗子開成高校2年	270名	進路講演会
12月20日	横浜市立南高校1年	240名	グローバル・異文化パネルトーク
1月12日	岡山理科大附属高校通信	12名	SDGs 貿易ゲーム
1月13日	岡山理科大附属高校通信	12名	ワークショップ「SDGs & Me」
1月17日	鎌倉女子大学教育学部2年	92名	建学の精神講座 SDGs 貿易ゲーム
1月18日	鎌倉女子大学教育学部3年	133名	建学の精神講座 SDGs 貿易ゲーム
1月19日	鎌倉女子大学教育学部1年	94名	建学の精神講座 WS「SDGs & Me」
3月9日	岡山理科大附属高校通信	6名	学校の世界地図を作ろう

計 1,242 名

以上

ウ 社会人に対する社会教育事業 ※エ 国際交流事業を含む

実施日	対象者・参加者	人数	内容・テーマ
6月27日	JICA 協力隊参加者	8	進路開拓セミナー
12月13日	探究教育への関心層	50	高校生の探究発表会
2月7日	社会福祉法人職員等	22	職員研修：テーマ「SDGs」
3月7日	社会福祉法人職員等	22	職員研修：テーマ「SDGs」
4月～3月	アメリカ大使館職員等	15	ネットワークづくり支援

以上

オ 市民活動団体等に対する支援事業

実施日	対象者・参加者	人数	内容・テーマ
9月21日	政策学校一新塾塾生	12	プロジェクトのコンサル

以上

【全事業を通して】

従事者：25名（団体メンバー・ボランティア） 約32名（外部協力者）

事業支出額合計 円

以上